

幸手市立幸手小学校 学力保障グランドデザイン

学校教育目標

自ら学び続ける子

・よく考えやりとげる子

・仲よく助け合える子

・健康でたくましい子

学校研修課題

吟味された教師の言葉により「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の創造

～国語科・算数科を中心とした自ら学び続けるための工夫～

本年度の重点

- ①主体的・対話的な授業で基礎・基本の学びを展開する
- ②幸手スタンダードを活かした「探究」で学びを深める
- ③個別最適な学びと協働の学びを一体的に充実させる

目標達成の指針

- ①全国学力・学習状況調査 平均正答率
- ②埼玉県学力・学習状況調査 学力を伸ばした児童の割合
- ③幸手市学力統一調査 平均正答率
- ④確認テスト 100点になった児童の割合
- ⑤家庭学習 目標時間を達成した児童の割合
- ⑥学力向上強化取組期間 年間実施日数

家庭・地域と学校で、4つの心・4つの力を育てる学校を目指します。

学校の共通行動



❖ 幸手スタンダード授業Ⅴ with GIGAの定着

導入からふりかえりまでの授業過程を「教師10分+子ども35分」とし、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりに個別最適な学びとしてICTの活用を位置づける。

❖ 問題発見・問題解決の探究型授業の定着

学習問題に対して、児童が見通しをもち、解決方法を選択して、自分のペースで問題を解決する授業により、個別最適な学びと協働の学びを保障する。

❖ 家庭・地域と連携した4つの心・4つの育成

つよい心、やさしい心、いのちを大切に作る心、考え律する心を道徳科を中心として耕し、思考力・創造力・チャレンジ力・思いやる力を学び合う授業で育てる。

❖ 優しさと厳しさと温かさで接する教師

子どもを認め、励まし、相談体制を整えて丸ごと受け止める組織的な対応により、一人一人の健全な成長を支援する。

確かな授業実践



❖ ペアやグループの導入

子どもの探究には学習資源が必要である。教科書や資料、ICT機器だけでなく、人を学習資源として活用することで、子ども同士・子どもと教師の信頼関係・絆を紡ぐ。

❖ 教師10分+子ども35分の授業

吟味された教師の言葉で授業を組織すると、子どもが主体的に学んだり練習したりする時間が確保され、基礎・基本の定着を保障する。

❖ 探究型の授業の組織

自分のペースで学び、探究する授業を組織すると、主体的な対話生まれ、ICTの活用が個別最適化されることで、思考力・創造力、チャレンジ力を鍛え、育てていく。

❖ 教職員の個別最適な学びと協働の学び

毎月1回の授業研究会を組織し、相互に授業を見合うことで協働の学びを構築するとともに、個人研修時間の確保により、個別最適な学びを保障し、一人一人の得意を伸ばす。

授業外での取組



❖ スキルタイムで基礎・基本の徹底反復

- ・スキルタイム（火：国語、木：算数）で徹底反復
- ・学年を分けて、朝マラソンとスキルタイム
- ・読書タイム（水曜日） ・学力向上タイム

❖ 学力向上強化期間の設定

- ・毎学期に2回の取組期間を設定
- ・県のコバトン・プリント、市のワークシートを活用
- ・年間25日以上を取組
- ・タブレットを活用した課題の設定

❖ 辞書引き検定で語彙力を高める

- ・プロジェクトチームを中心としてコンテストを実施
- ・日常の辞書引きの取組
- ・家庭学習（自主学習や宿題）と連携した取組

家庭・学校間連携



❖ 家庭学習の組織化

授業との関連を図る課題や自分の得意を伸ばせる課題など学年段階に合わせた課題を提示することで、自主的な家庭学習を組織していく。

❖ ICTを活用したハイブリッドな学び

欠席したけれどもオンラインで授業に参加できる児童にはTeamsを活用して学べる環境を維持していく。また、自主学習でもタブレットを活用した探究ができるように持ち帰りを意図的計画的におこなう

❖ 中学校区での連携

オンライン授業での校区連携や、コミュニティ・スクールとしての情報連携を進めることで、3小学校1中学校の9か年の学びと育ちを紡いでいく。